

★ 共通テストまで **50日**

**このままでは終われない**

**残り時間で 最大限の努力をしよう！**

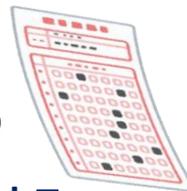
1/15(土)・16(日)の共通テストまで残り50日となりました(11/26現在)。  
3年生の中には、続々と返却される模試の結果を見て、焦りや不安とともに、あきらめの気持ちを持ち始めている人はいませんか？ここであきらめてしまえば、自分の成長した姿を見ることなく終わってしまいます。本当にそれでいいのでしょうか？くじけそうになったら、ぜひ、3年間の東高校での生活を思い返してみてください。何のために、3年間、毎日7校時まで授業を受け、休日も課外に出席し、たくさんの模試を受けてきたのか！？やりこなした課題も、3年間でかなりの量になるでしょう。部活動でどんなに疲れていても、勉強との両立を目指してやってきたのではないですか？こうした今までの積み重ねてきた努力の成果が、「数字」となって現れてくるのはこれからです。その成果を見ずにやめてしまって、後悔はありませんか？  
毎年、最後まであきらめずやり抜いた東高生は、実力を伸ばし、良い結果を出していきます。今年の3年生も、自分の可能性を信じ最後までやり抜いてください。東高3年生の意地を見せてくれることを期待しています。

**特集 1 50日前にすべきこと**

**1 受験勉強の追い込みをかけろ**

**1. 基礎・基本を再確認し「知識系問題」を確実に得点する**

共通テストで、一番ダメージが大きく、合否結果につながる危険性が高いのは、全体の正解率が高くなる「基礎・基本の問題」で無駄な失点することです。高い思考力や判断力を求められる「難問」は、誰にとっても正解しにくく正解率が低くなるため、実は差が付きにくいのです。ゆえに、あやふやな基礎事項は早期に再確認し確実に定着させておくことが大事です。最新の模試においても、取りこぼしている基礎問題がきっとたくさんあるはず。各科目で、こうした基礎問題を、あと2、3問ずつでも得点できるようになると、5教科7科目の合計点では、軽く50点以上は上昇するはず。本番直前の勉強において、この考え方は大変重要で効果的です。これで本番での合否判定が、確実に1～2段階は変わります。



**2. 模試と共通テスト対策演習の問題を復習する**

これまでの「模試」と授業・課外での共通テスト対策演習の問題を徹底的に復習すべきです。特に、正解率が低かった問題に関しては、時間をかけて取り組み、理解を完全なものにしておきましょう。残り50日の時間があれば、十分、弱点の強化が可能ですから、あきらめてはいけません。

**3. 理社を重要な得点源にする + 英数国のレベル上げ**

文系・理系を問わず、理科と地歴公民(合計300点)は向上の余地が十分に残されていて、残り時間での上昇が最も期待できる教科です。勉強量に比例して得点が増えると言っても、過言ではありません。今すぐ家庭での勉強量を増加させるべきで、やらずに終わったら本当にもったいないのです。ただし、「英数国」の勉強時間を減らしては何の意味もありません。今後、英数国(合計600点)の得点が上がってこなければ、いくら理社を強化しても、合格ラインには到達できません。

**2 受験準備を計画的に進めておく**

**1. 12月の三者面談で志望校を絞り込む**

本校の12月の「三者面談」では、生徒の希望とこれまでの模試での合格判定等を参考に、最終的な「出願校の絞り込み」をしています。

**① 国公立大受験者は『出願先の組み合わせ』を作成**

国公立大志望者に対しては、共通テストの結果の判定に応じた出願先の組合せのパターン(「前期日程」+「後期・中期日程」)を以下のような3つの設定をするよう指導しています。そして、共通テスト後には、あらかじめ設定した組み合わせを基にして実際の出願を行います。その時になって慌てることのないよう、12月中に、担任や保護者の意見を聞きながらしっかり検討して、準備を進めておきましょう。そして、3月の後期日程までやり切るのが、国公立大志望者の基本です。

- ・パターン1 共通テストで目標点を上回った場合 (第1志望がA～B判定)
- ・パターン2 共通テストで目標点を少し下回った場合 (第1志望がC判定付近)
- ・パターン3 共通テストで目標点を大きく下回った場合 (第1志望がD判定以下)

**② 私立大受験者は 詳細な『受験計画』を作成**

各大学の「募集要項」で、受験科目、入試日程(出願期間、試験日、入学手続き期限)、試験会場、募集定員等を確認しましょう。そして、自分の実力と大学の難易度とを考慮し、日程的にも経済的にも無理のない受験計画を立てておきましょう。「共通テスト利用型」入試も有効ですが、共通テストを失敗すれば挽回不可能です。各大学の「最大募集定員」の日程に確実に出願することを勧めます。

**2. 「願書」・「WEB出願」の準備、「宿泊先・移動手段」の確保**

一般選抜入試の「願書」は、各自で入手し、自分自身で出願手続きを行います。近年増加している「WEB出願」も同様で、自分自身で行います。なお、宿泊が必要な場合は、早めに予約しておくことを勧めます。特に2月の私立大入試が集中する期間や、国公立大前期日程の前日(2/24～25)は、毎年、宿泊が取りにくくなっているので注意しましょう。

# 2学年「大学講義」

10月22日(金)6・7校時 実施

「2学年大学講義」を実施しました。県内外の大学から、例年より多い11名の先生方を招き、それぞれが専門としている学問分野について興味深いお話をお聴きすることができました。

講師11名・福島大学	行政政策学類	村上 雄一 先生	
	経済経営学類	野際 大介 先生	
	共生システム理工学類	小山 純正 先生	川崎 興太 先生
	人間発達文化学類	加藤奈保子 先生	澁澤 尚 先生
・福島県立医科大学	看護学部	大川 貴子 先生	
	保健科学部	高橋 仁美 先生	
・会津大学	コンピューター理工学部	平田 成 先生	
	企画運営室兼グローバル推進本部	麻野 篤 先生	
・山形大学	農学部	笹沼 恒男 先生	



## 【受講者の感想より】

- 「SDGsって何だろう？」～私たちにも取り組めるSDGs～ 会津大 麻野 篤 先生  
SDGsの認識率は大人より学生の方が高いと知って驚いた。今後、自分が伝える側になって理解をしてもらいたい。知っているだけではだめで、理解してそれを行動に移すべきだと思った。環境、社会、経済の3つを合わせなければ持続可能な社会は作れないと初めて知った。
- 「肉」からひもとく故事成語と漢字の世界 福島大学人間発達文化学類 澁澤 尚 先生  
昔のことが現代にもつながっているということは非常に興味深い。1つ1つの漢字にきちんと意味があり、それを表していることに普段何気なく漢字を使うことをもったいないと思った。もっと知りたい。意味を理解したり、考えたりすることもいいなと思った。元の漢字から今使っている文字を想像することが楽しかった。
- 「絵画の目指すもの」～イタリアバロック期の画家たちを例に～ 福島大学人間発達文化学類 加藤奈保子 先生  
「美術」という観点から「世界史」や「宗教史」について、今後、調べていきたいと思った。今後は、描かれた時代背景や経緯など、今まで考えてこなかった新たな視点から絵画を鑑賞したい。いつか海外の美術館に行って、今回学んだことを生かして鑑賞したいと感じた。
- 「福島の復興に向けた課題」 福島大学共生システム理工学類 川崎 興太 先生  
自分は福島の復興について知らないことばかりであることに気づいた。ワークショップで他の人の考えを知ることができて良かった。改めて大震災の被害の実態を知りたいと思ったし、今後、同様の被害を繰り返さないよう対策をすべきと感じた。



- 「小惑星探査機はやぶさ2と会津大学」 会津大コンピューター理工学部 平田 成 先生  
小惑星を調べることで地球誕生の秘密を解き明かす手がかかりになるということに興味があった。コンピューター系統でも、宇宙、ロボット、医療などたくさんの方に応用でき、世のためになる職業が多いと感じた。「なぜそうなっているのか？」と疑問に思うことで、そこから新たな発見が生まれたり、意外なものとの接点が見つかったりするので、その探究心をもつことが大切だということ学んだ。



- 「眠りと夢の不思議について」～より良い眠りで成績アップ？～ 福島大学共生システム理工学類 小山 純正 先生  
眠るときに分泌されるホルモンや人が眠くなる原因物質は、すべて普段の生物の授業で聞いたものばかりだったので、高校の授業の延長線上に大学の講義があることを理解した。睡眠という視点からヒトの体について知ることができ、興味もありとてもワクワクした講義だった。

- 「大学で学ぶ理学療法とは」 福島県立医科大学保健科学部 高橋 仁美 先生  
日本特有の「寝たきり」についての現状や解決策、チーム医療についてのことを知ることができて良かった。理学療法と作業両方のリハビリの違いを知ることができた。リハビリが、保健で学んだノーマライゼーションやバリアフリーの基本理念と結びつけられてとても分かりやすかった。



- 「ベニバナの来た道」 山形大学農学部 笹沼 恒男 先生  
農学の研究規模が思っていた以上に大きく世界規模であったことと、地域貢献につながることを知り、農学への考え方が広がった。農学は生物学や経済学などの勉強をまとめたものであることに驚いた。農学は今後、SDGsなどの環境対策の基礎となる学問だと思えるので、その道に進んでみてもおもしろいと思えた。

- 「情報化時代のデータサイエンスとマーケティング」～数理・統計科学を経済経営分野へ応用する～ 福島大学経済経営学類 野際 大介 先生  
データ分析をもとにビッグデータを作成し、マーケティングの狙いを考えて行動することの必要性を考えることができた。現代の経済を見るためには、数学やデータサイエンスの知識や技術の習得が必須となることが分かった。



- 「もっと知りたい！オーストラリア」を深読みする 福島大学行政政策学類 村上 雄一 先生  
「多文化共生」のイメージの強いオーストラリアだが、地理、植民地時代、ゴールドラッシュ時代などさまざまな角度から文化が豊かである経緯を知った。オーストラリアと日本との関係は単なる貿易上の関係ではなく、両国民の理解を深めることを目的としたさまざまな活動を通してより良い関係を築いていることが印象に残った。

- 「大学で学ぶ看護学」 福島県立医科大学看護学部 大川 貴子 先生  
看護には倫理観、目的意識、論理的思考、表現力、行動力が最も必要であって、自分で疑問を見つけ考えることや人と向き合うことが大事だと感じた。看護は「セルフケア」に「アプローチ」という言葉の通り、身体的だけでなく心のケアも重要な看護であることが分かった。

